

## 令和7年度 授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立辰巳台中学校
-----	----------	-----	------------

### 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和7年度調査では、3教科とも県・全国の平均よりも低い結果になった。とりわけ、数学においては大きな課題が見られた。（令和6年の調査でも同様の傾向が見られた）
- 領域別では特に「図形」の理解に課題がある。
- 記述式の問題に対する課題がある。（無解答率が高い）

### 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 小集団での「学び合い活動」を授業に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」のある授業につながり、「自ら課題を持ち、多様な人々と協働する力」が育成されるであろう。
- ICT 機器及びアプリケーションを適宜活用することにより思考力の向上が図れるであろう。

### 3. 具体的な実践

- 基礎学力の向上に欠かせない「読解力」の向上のために朝読書を年間通して行う。
- OT・Tを実施し、つまずいている生徒の支援を行い、個別のボトムアップを行う。
- ペアや小集団での活動の場を増やし、ともに考える協働の場の設定を意図的に行う。
- OPPシートを活用して、教員は生徒の理解度を確認し、生徒自身に記述させることで思考の整理を促す。
- 教科部会の頻度を増やし、指導法の共有や連携の強化を行う。
- デジタル教科書や意見交換等にタブレットを活用する。

### 4. 成果

- OT・Tによってつまずいている生徒に対し、個別のアプローチをすることができた。
- 小集団での学習機会を増やしたことで、協働的な学びの有用性を感じる生徒が増えた。
- OPPシートを活用することで、生徒の理解度に合わせた発問などを効果的に行うことができた。
- 教科部会の頻度を多くしたことで、協働的な学びを効果的に行うための指導法の改善や情報交換等が適宜行うことができた。

### ◆担当指導主事から

- 小集団での学び合い活動では、理解度の高い生徒を中心に主体的に学習を進めることができている。その他の生徒も協働的な学びの有用性を感じている様子が見られた。
- 他教科でも学び合い活動や考えを記述する活動は取り入れているとのこと。数学科だけでなく、全校体制で取り組むことで、研究主題の達成がさらに期待できる。